

(社) 日本コンクリート工学協会四国支部
「環境配慮型コンクリート構造物設置後の機能変化に関する調査研究委員会」

第一回委員会

1. 日時：2009 年 8 月 10 日（月）10 時 30 分～12 時 00 分
2. 場所：徳島大学工学部エコ棟 6 階 605 会議室
3. 出席者：上月康則，水口裕之，橋本親典，渡辺健，真田純子，山田登志夫，葛西博文，田中基博，飯山直樹，石田達憲，三浦正純，甲斐崇，本田陵二
4. 議事
 - ・各委員の自己紹介をした。
 - ・エココンクリート構造物の評価を 4 分野（①緑化，②景観，③気温調整，④劣化）に分け，各分野で主査とメンバーを決めて，進めていくこととした。主査が評価方法や成果をとりまとめることとした。
 - ・第二回委員会の視察の概要説明をした。

第二回委員会

1. 日時：2009 年 8 月 31 日（月）9 時 30 分～17 時 00 分
2. 場所：徳島大学工学部エコ棟 6 階 605 会議室および徳島県内の現場
3. 出席者：上月康則，水口裕之，橋本親典，渡辺健，真田純子，増田拓朗，横井克則，川崎末和，山田登志夫，葛西博文，田中基博，飯山直樹，石田達憲，三浦正純，本田陵二
4. 議事
 - ・正法時川（徳島県徳島市），榎瀬（徳島県徳島市），熊谷樋門（徳島県阿南市），大谷川（徳島県阿南市）の四ヶ所のエココンクリート視察をした。
 - ・エココンクリート視察のまとめを各ワーキンググループ（以下 WG）によってエココンクリート視察の評価方法についての議論を行った。
 - (1) 緑化 WG：
 - ・早期緑化が求められている。
 - ・基盤：土壌，空隙の整理。
 - ・目的：条件を整理して評価すること。
樹林化は？管理は？生態？
 - ・どこを評価するか？
 - ・無植生←植被率→樹林。
 - ・あるべき姿の測り方。
 - ・目的が景観であれば景観で，管理が目的なら管理で。

(2) 景観 WG

- ・緑化だけでなくエイジングにも意味がある（風景に馴染む）。
- ・ポーラスコンクリートの凹凸は遠くから見ると意味がない。
- ・施工箇所の規模によって評価方法を変える必要があるのではないか。
- ・水際と護岸擁壁の天端では求められる緑が異なる。

天端から護岸擁壁に垂れ下がっている植物が景観的には良く感じる。

- ・コンクリートパネル < ポーラスコンクリート < 石積み（石垣）。
- ・既往知見から評価方法を決める。
- ・遠景からみた川らしさを考える。

(3) 気温調整 WG

- ・植生の有無で表面温度は約 10℃違う。
- ・赤外線，接触温度，上面の気温を測定する。
- ・ポーラスコンクリートで植生の無い所を調べる。
- ・ポーラスコンクリートの種類によって効果が違うか。
- ・何を効果とするのか。

(4) 劣化 WG

- ・正法寺川と大谷川のポーラスには劣化有。
- ・ポーラスコンクリートにとって 10 年間は長いのか短いのか？